

1. 研究の目的と方法

現代におけるレジャーはこれまでのように余暇時間の枠に縛られることなく、人々の全生活の中で非常に多様に展開している。この傾向は今後望まれる余暇時間の増大や老後の時間的余裕等により益々強まり、人々の生活の中に占めるレジャーの位置は重要になるものと思われる。

本研究はレジャーを人間の全生活に関連する幅広く、個々人の自由で選択的な行動の概念であると捉え、レジャーおよびそれが行われる場としてのレジャー環境の在り方についての考察を行ったものである。特に、筆者らは日常的に展開する生活とレジャーとは大きく重なると考えており、こうした日常生活の中でのレジャーに着目し、レジャーの意味付け、レジャー行為の特性、およびレジャーが行われる日常的環境への評価を明らかにすることを目的とした。

ここでは、筑波研究学園都市を研究対象として取り上げ、都市として成熟段階に入ったといわれる新都市における日常的レジャーの実態およびレジャー環境のあり方について考察を試みるものである。

筑波研究学園都市は、国の政策にもとづいて昭和40年代から60年代はじめにかけて建設された。初期の多くの批判にもかかわらず、今では我が国における科学技術研究のセンターとして、内外から高く評価される存在となり、ビッグプロジェクトとしては稀にみる成功事例と見なされている。筆者らはこの都市建設の最初からその中心的位置にあり、30年間一貫してその計画・建設に関わり、またこの都市をフィールドとして物理的な空間の変遷等に関する調査研究を積み重ねてきている。これまでに都市住民の生活意識の把握を目的とした調査研究も行われており、本研究は大枠ではこうした一連の筑波研究学園都市を対象とした研究の中に位置づけられていくものである。

研究目的を達成するための具体的な手順は以下に示すとおりである。

- (1) レジャーの意味の明確化
- (2) 生活実態とレジャー観の把握
- (3) 日常的レジャーの活動実態と行為特性類型の抽出
- (4) 日常的環境への評価構造の抽出

先ず(1)に対応して現代におけるレジャーに対する人々の意味付けについての仮説を構築する。続いて筑波研究学園都市居住者を対象に行ったアンケート調査結果を通じて(2)に対応する都市住民の生活実態とレジャー観の把握を試みる。さらに、(3)では都市住民の多様化する日常的レジャー活動の実態を捉えるとともに、レジャーをその行為特性にもとづいて類型化する。(4)は様々な日常的レジャーが行われる環境について都市住民の心理的印象から、評価構造を考察するものである。